# 無機化学

6.3 一酸化二窒素(笑気ガス) . . . . . . . . .

10

E	1次			6.4	一酸化窒素	10
				6.5	二酸化窒素	11
				6.6	硝酸	11
穿	部	非金属元素	2	7	リン	12
1		水素	2	7.1	リン	12
_	1.1	性質	2	7.2	十酸化四リン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
	1.2	同位体	2	7.3	リン酸	12
	1.3	製法	2			
	1.4	反応	2	8	炭素	13
			_	8.1	炭素	13
2		貴ガス	2	8.2	一酸化炭素	13
	2.1	性質	2	8.3	二酸化炭素	13
	2.2	生成	2	9	ケイ素	13
	2.3	ヘリウム	2	9.1	プロス 二酸化ケイ素	
	2.4	ネオン	2	9.1	一致11/1条	10
	2.5	アルゴン	2			
3		ハロゲン	3	第Ⅱ部	典型金属	14
J	3.1	単体	3	10	アルカリ金属	14
	3.2	ハロゲン化水素	4	10.1	単体	14
	3.3	ハロゲン化銀	5	10.2	水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)	14
	3.4	次亜塩素酸塩	5	10.2	炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
	3.5	水素酸カリウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5	10.0	NEW TO THE STATE OF THE STATE O	10
	0.0	7,7,5,RB,7,7,5,	9	11	2族元素	16
4		酸素	6	11.1	単体	16
	4.1	酸素原子	6			
	4.2	酸素	6	第川部	B APPENDIX	18
	4.3	オゾン	6	) 3 H	, , , , , = , , , , , , , , , , , , , ,	
	4.4	酸化物	7	12	気体の乾燥剤	18
	4.5	水	7			
5		硫黄	8			
J	5.1	硫黄	8			
	5.2	硫化水素	8			
	5.3	二酸化硫黄(亜硫酸ガス)	8			
	5.4	硫酸	9			
	5.5	チオ硫酸ナトリウム (ハイポ)	9			
	5.6	重金属の硫化物				
	5.0	<u> </u>	10			
6		窒素	10			
	6.1	窒素	10			
	6.2	アンモニア	10			

#### 第I部

## 非金属元素

## 1 水素

## 1.1 性質

- ① 色② 臭の③
- 最も 4
- 水に溶け 5

## 1.2 同位体

<sup>1</sup>H 99% 以上 <sup>2</sup>H (6\_\_)0.015% <sup>3</sup>H (7\_\_) 微量

### 1.3 製法

- ナフサの電気分解 工業的製法
- ・赤熱した 8 に 9 を吹き付ける工業的製法
- [10] ([11] ) の電気分解
- <u>[12]</u>が<u>[13]</u>金属と希薄強酸

  - $\bigcirc \mathbb{R}$  ZnCl<sub>2</sub> + H<sub>2</sub>  $\uparrow$
- 水酸化ナトリウムと水

## 1.4 反応

- 水素と酸素 (爆鳴気の燃焼)
- 加熱した酸化銅(Ⅱ)と水素

## 2 貴ガス

(14) , (15) , (16) , (17) , Xe, Rn

#### 2.1 性質

- [18] 色[19] 臭
- 第 18 族元素であり、電子配置がオクテットを満たす ため反応性が低い
- イオン化エネルギーが極めて大きい
- 電子親和力が 20
- 電気陰性度が[21]

## 2.2 生成

 $^{40}$ K の電子捕獲

## 2.3 ヘリウム

化学式:He 浮揚ガス

#### 2.4 ネオン

化学式:Ne ネオンサイン

#### 2.5 アルゴン

化学式:Ar  $N_2$ ,  $O_2$  に次いで 3 番目に空気中での存在量が 多い(約 1%)。

無機化学

## 3 ハロゲン

#### 3.1 単体

#### 3.1.1 性質

化学式	$F_2$	$Cl_2$	$\operatorname{Cl}_2$ $\operatorname{Br}_2$				
分子量	小			大			
分子間力	弱			強			
反応性	強						
沸点・融点	低			高			
常温での状態	22	23	24	25			
色	26 色	27 色	28 色	29色			
特徴	臭	31 臭	揮発性	32性			
H <sub>2</sub> との反応	33 でも	<u>34</u> でも <u>35</u> で	36 して	高温で平衡状態			
112 C 07/X//L	爆発的に反応	爆発的に反応	37 により反応	38 して 39 により一部原			
水との反応	水を酸化して酸素と	(41)	(42)	<u>[43]</u>			
		(41)	(42)	44)			
用途	保存が困難	<u>45</u> による	C=C ♣	<u>47</u> 反応で			
	Kr や Xe と反応	作用	C≡C の検出	色			

#### 3.1.2 製法

•	フッ化水素ナトリウム $\mathrm{KHF}_2$ のフッ化水素 $\mathrm{HF}$ 溶液
	の電気分解工業的製法
	$KHF_2 \longrightarrow KF + HF$

- [49] の電気分解 塩素 工業的製法
- (50) に (51) を加えて加熱
- [52] と [53] 塩素
- [54] と [55] 塩素
- 臭化マグネシウムと塩素 臭素  $MgBr_2 + Cl_2 \longrightarrow MgCl_2 + Br_2$
- ヨウ化カリウムと塩素 ョウ素 $2 \, \mathrm{KI} + \mathrm{Cl}_2 \longrightarrow 2 \, \mathrm{KCl} + \mathrm{I}_2$

## 3.1.3 反応

- フッ素と水素
- 塩素と水素
- 臭素と水素
- ヨウ素と水素
- フッ素と水
- 塩素と水
- 臭素と水
- ヨウ素の固体がヨウ化物イオン存在下で三ヨウ化物 イオンを形成して溶解する反応

無機化学 3/18

3.2 ハロゲン化水素 3 ハロゲン

#### 3.1.4 塩素発生実験の装置

 $\mathrm{MnO_2} + 4\,\mathrm{HCl} \xrightarrow{\Delta} \mathrm{MnCl_2} + \mathrm{Cl_2} \uparrow + 2\,\mathrm{H_2O}\,\,\mathrm{Cl_2,HCl,H_2O}$ ↓ [56] に通す (HCl の除去)  $Cl_2,H_2O$ 

 $\downarrow$  [57] に通す( $H_2O$  の除去)

 $Cl_2$ 

#### 3.1.5 塩素のオキソ酸

オキソ酸 … [58]



## 3.2 ハロゲン化水素

#### 3.2.1 性質

化学式	HF	HCl	HBr	HI			
色・臭い		67 色 68					
沸点	20°C	−85°C	−67°C	−35°C			
水との反応	69						
水溶液	70	71	72	73			
(強弱)	74	≪ 75 < 7	6 < 77	)			
用途	78 と反応	79の検出	半導体加工	インジウムスズ			
<b>元</b> 处	⇒ ポリエチレン瓶	各種工業	一一等件加工	酸化物の加工			

#### 3.2.2 製法

- <u>83</u> と <u>84</u> 塩化水素 工業的製法
- に[86] に加えて加熱 塩化水素 (87) 酸・[88] 酸の追い出し)

#### 3.2.3 反応

- 気体のフッ化水素がガラスを侵食する反応
- フッ化水素酸(水溶液)がガラスを侵食する反応
- (89) による(90) の検出

無機化学 4/18 3.3 ハロゲン化銀 3 ハロゲン

## 3.3 ハロゲン化銀

#### 3.3.1 性質

化学式	AgF	AgCl	AgCl AgBr A				
固体の色	91 色	92色	93 色	94 色			
水との反応	95	96					
光との反応	97	感	光性(→98	_)			

#### 3.3.2 製法

- 酸化銀(I)にフッ化水素酸を加えて蒸発圧縮
- ハロゲン化水素イオンを含む水溶液と 99

## 3.4 次亜塩素酸塩

#### 3.4.1 性質

[100] 剤として反応([101] ・[102] 作用)

#### 3.4.2 製法

- 水酸化ナトリウム水溶液と塩素
- 水酸化カルシウムと塩素

## 3.5 水素酸カリウム

化学式: [103]\_\_\_\_\_

#### 3.5.1 性質

[104] の生成([105] を触媒に加熱)

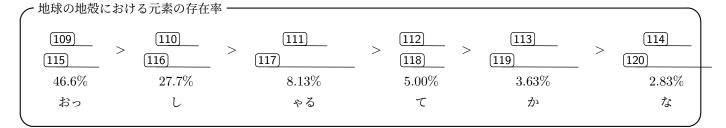
無機化学 5/18

## 4 酸素

## 4.1 酸素原子

同(106) 体:酸素 $(O_2),(107)$   $(O_3)$ 

地球の地殻に [108] 存在



## 4.2 酸素

化学式: $O_2$ 

#### 4.2.1 性質

- [121] 色[122] 臭の[123]
- 沸点 −183°C

#### 4.2.2 製法

- [124] 工業的製法
- <u>125</u> ( <u>126</u> ) Ø
- [128] ([129] ) の分解
- [130] の熱分解

#### 4.2.3 反応

[131] 剤としての反応

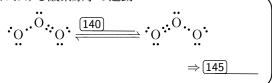
#### 4.3 オゾン

化学式: [132]

#### 4.3.1 性質

- [133] 臭 ([134] 臭) を持つ[135] 色 の [136] (常温)
- 水に[137]
- 138 ・ 139 作用

オゾンにおける酸素原子の運動 -



#### 4.3.2 製法

#### 4.3.3 反応

- [148] 剤としての反応
- 湿らせた [149] を [150] 色 に変色

4.4 酸化物 4 酸素

## 4.4 酸化物

	塩基性酸化物	両性酸化物	酸性酸化物		
元素	元素	[152] 元素	元素		
水との反応	<u> </u>	[155]	<u> </u>		
中和	[158] と反応	[159] と反応	[160] と反応		

両性酸化物 … [161] (162]), 163] (164]), 165] (166]), 167] (168])\*1

- $\bigcirc O_2 + H_2O \longrightarrow H_2CO_3$
- $\bigcirc SO_2 + H_2O \longrightarrow H_2SO_3$

#### 4.4.1 反応

- 酸化銅(Ⅱ)と塩化水素
- 酸化アルミニウムと硫酸
- 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

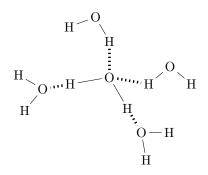
### 4.5 水

#### 4.5.1 性質

- [169] 分子
- 周りの4つの分子と 170 結合
- 異常に 171 沸点
- 172 結晶構造(密度:固体(173) 液体)
- 特異な[174]

#### 4.5.2 反応

- 酸化カルシウムと水
- 二酸化窒素と水



無機化学 7/18

<sup>\*1</sup> 覚え方:ああすんなり

#### 5 硫黄

### 5.1 硫黄

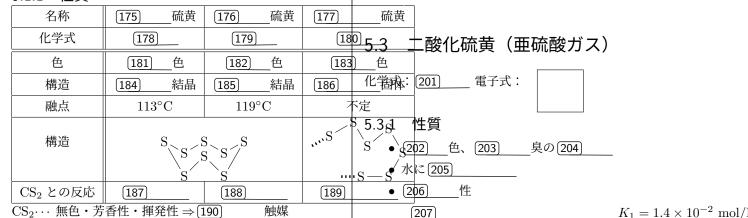
#### 5.1.1 性質

#### 5.2.3 反応

- 硫化水素とヨウ素
- 酢酸鉛(II)水溶液と硫化水素([200] の検出)

作用)

● [210] 剤([211] などの強い還元剤に対して)



5.1.2 反応

- 高温で多くの金属(Au、Ptを除く)との反応
- 空気中で[191] 色の炎を上げて燃焼

#### 5.3.2 製法

- ・ 硫黄や硫化物の 212 工業的製法
- [213] と希硫酸
- (214) と (215)

• [208] 剤([209]

5.2 硫化水素

化学式: [192]\_\_\_\_

#### 5.2.1 性質

- [193] 色[194] 臭
- <u>195</u>性 { <u>196</u> <del>197</del>

 $K_2 = 1.3 \times 10^{-14} \text{ mol/L}$ 

● [198] 剤としての反応

- 重金属イオン M<sub>2</sub><sup>+</sup> と 199を生成
- $K_1 = 9.5 \times 10^{-8} \text{ mol/L } 5.3.3$  反応
  - 二酸化硫黄の水への溶解
  - 二酸化硫黄と硫化水素
  - 硫酸酸性で過マンガン酸カリウムと二酸化硫黄

#### 5.2.2 製法

- 酸化鉄(Ⅱ)と希塩酸
- 酸化鉄(Ⅱ)と希硫酸

5.4 硫酸 5 硫黄

#### 5.4 硫酸

#### 5.4.1 性質

- [216] 色[217] 臭の[218]
- 水に[219]
- 溶解熱が [220]
- (221) を加えて希釈
- [222] 性で密度が[223] く、[224] が大きい 濃硫酸
- [225] 性・[226] 作用 **濃硫酸**
- [227] 希硫酸

( 228)  $K_1 > 10^8 \text{mol/L}$ 

- [229] <u>濃硫酸</u> ([230] 、[231] の濃度が小さい)
- [232] 剤として働く 熱濃硫酸
- [233] • [234] ( [235] , [236] ),
  - [237] と難容性の塩を生成 希硫酸

#### 5.4.2 製法

2. 239

**238** 法 工業的製法 -

1. 黄鉄鉱 FeS<sub>2</sub> の燃焼

( )

- \_\_\_\_
- (240) に吸収させて (241) とした
   後、希硫酸を加えて希釈

触媒で酸化

#### 5.4.3 反応

- 硝酸カリウムに濃硫酸を加えて加熱
- スクロースと濃硫酸
- 水酸化ナトリウムと希硫酸
- 銀と熱濃硫酸
- 塩化バリウム水溶液と希硫酸

## 5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ)

化学式: [242]

#### 5.5.1 性質

- 無色透明の結晶(5水和物)で、水に溶けやすい。
- 245 剤として反応

例水道水の脱塩素剤 (カルキ抜き)

[246]

#### 5.5.2 製法

亜硫酸ナトリウム水溶液に硫黄を加えて加熱

#### 5.5.3 反応

ヨウ素とチオ硫酸ナトリウム

#### 5.6 重金属の硫化物

酸性でも沈澱(全液性で沈澱)											中性	生・塩基	性で沈	Z澱(酸	性では	溶解)			
	$Ag_2S$	Hg	S	Cu	S	Pb	S	SnS	S	$\operatorname{Cd}$	S	NiS	S	Fes	S	Zn	S	Μ	InS
	247 色	248	色	249	色	250	色	251	色	252	_色	253	_色	254	色	255	色	256	
						(	257)		イオ	ン化傾向	J	[258]							

 (257)
 イオンに傾向
 (258)

 (259)
 塩の溶解度積 (K<sub>sp</sub>)
 (260)

## 6 窒素

## 6.1 窒素

化学式: $N_2$ 

#### 6.1.1 性質

- 261 色 262 臭の 263
- 空気の 78% を占める
- 水に溶け (264) (265) 分子)
- ・ 常温で (266) (食品などの (267)
- 高エネルギー状態 ([268] · [269] ) では反応

#### 6.1.2 製法

- [270] 工業的製法
- (271) Ø (272)

#### 6.1.3 反応

- 窒素と酸素
- 窒素とマグネシウム

#### 6.2 アンモニア

化学式: [273]

#### 6.2.1 性質

- [274] 色[275] 臭の[276]
- 277 結合
- 水に[278] ([279] 置換)
- (280) 性  $\left( \begin{array}{c} (281) \\ K_1 = 1.7 \times 10^{-5} \text{ mol/L} \end{array} \right)$
- [282] の検出
- 高温・高圧で二酸化炭素と反応して、 (283) を 生成

#### 6.2.2 製法

- 284 工業的製法285 温 286 圧で、 287 (288 ) 触媒
- [289] と [290] を混 ぜて加熱

#### 6.2.3 反応

- 硫酸とアンモニア
- 塩素の検出
- アンモニアと二酸化炭素

## 6.3 一酸化二窒素 (笑気ガス)

化学式: [291] \_\_\_

#### 6.3.1 性質

- 無色、少し甘味のある気体
- 水に少し溶ける
- 常温では反応性が低い
- [292] 効果

#### 6.3.2 製法

[293] の熱分解

#### 6.4 一酸化窒素

化学式:[294]

#### 6.4.1 性質

- [295] 色[296] 臭の[297]
- 中性で水に溶けにくい
- 空気中では[298] とすぐに反応

6.5 二酸化窒素

6 窒素

<ul><li>■                                       </li></ul>	•	血管拡張作用	•	神経伝達物質
--	---	--------	---	--------

6	4.2	製法
U.	.4.2	<del>ジ</del> ラバ

(299) と (300)

#### 6.4.3 反応

酸素と反応

## 6.5 二酸化窒素

化学式: [301]

#### 6.5.1 性質

- [302] 色[303] 臭の[304]
- 水と反応して 305 性(306 の原因)
- 常温では 307 ( 308 色)と 309
- 140°C 以上で熱分解

#### 6.5.2 製法

(310) と (311)

## 6.6 硝酸

化学式: [312]

#### 6.6.1 性質

- 313 色(314) 臭で(315) 性の(316)
- 水に(317)
- (318) 性

(319)  $K_1 = 6.3 \times 10^1 \text{mol/L}$ 

- (320)に保存((321)
- [322] 剤としての反応 希硝酸
- [323] 剤としての反応 濃硝酸
- イオン化傾向が小さい Cu、Hg、Ag も溶解
- 324 , 325 , 326 , 327 , 328 は
   329 が生じて不溶 濃硝酸 = 330
- <u>331</u> (<u>332</u> :1 <u>333</u> =3:1) は、 Pt,Auも溶解

•  $NO_3$  は 334  $\Rightarrow$  335 で検出

#### 6.6.2 製法

- (336)
  - 1. 337 触媒で 338 を 339
  - 2. (340)
  - 3. 341 と反応
- (342)に(343)を加えて加熱

#### 6.6.3 反応

- アンモニアと硝酸
- 硝酸の光分解
- 亜鉛と希硝酸
- 銀と濃硝酸

## 7 リン

## 7.1 リン

化学式:[344]

#### 7.1.1 性質

三種類の同[345] 体がある

名称	346 リン	リン 347 リン	
化学式	348	<u>[349]</u>	$P_4$
融点	44°C	590°C*2	610°C
発火点	35°C	260°C	
光八点	350 に保存	351	-
密度	$1.8 \mathrm{g/cm^3}$	$2.16 \mathrm{g/cm^3}$	$2.7 \mathrm{g/cm^3}$
毒性	352	353	354
構造	P	P P P P P P P P	略
CS <sub>2</sub> への溶解	355	(356)	357

#### 7.1.2 製法

- リン鉱石にケイ砂とコークスを混ぜて強熱し、蒸気を水で冷却 黄リン 工業的製法
- ・ 空気を遮断して黄リンを 250°C で加熱 赤リン
- 空気を遮断して黄リンを 200°C、1.2 × 10<sup>9</sup>Pa で加熱 黒リン

## 7.2 十酸化四リン

化学式: [358]

#### 7.2.1 性質

- 白色で昇華性のある固体
- 359 (水との親和性が 360)
- 乾燥剤
- 水を加えて加熱すると反応(361)

#### 7.2.2 製法

(362)

#### 7.2.3 反応

水を加えて加熱

#### 7.3 リン酸

化学式: (363)

#### 7.3.1 性質

(365)

 $K_1 = 7.5 \times 10^{-3} \text{ mol/L}$ 

#### 7.3.2 反応

- リン酸カルシウムとリン酸が反応して重過リン酸石 灰が生成
- リン酸カルシウムと硫酸が反応して過リン酸石灰が 生成

## 8 炭素

## 8.1 炭素

## 8.1.1 性質

炭素の同[366]	体は、(367) 、(368) ([	369 etc		
名称	370	<u> </u>		
特徴	372 色 373 で屈折率が大きい固体	<u> 374</u> 色で <u>375</u> がある固体		
密度	$3.5\mathrm{g/cm^3}$	$2.3\mathrm{g/cm^3}$		
構造	376   方向の 377   結晶	[378] 構造		
電気伝導性	[379]	380		
用途	宝石・カッターの刃・研磨剤	鉛筆・電極		

8.2 一酸化炭素

## 8.3 二酸化炭素

## 9 ケイ素

## 9.1 二酸化ケイ素

無機化学 13/18

## 第Ⅱ部

## 典型金属

## 10 アルカリ金属

### 10.1 単体

#### 10.1.1 性質

- 銀白色で [381] 金属
- 全体的に反応性が高く、382 中に保存
- 原子一個粗利の自由電子が 383 個(384 い 385 結合)
- 還元剤として反応

化学式	Li	Na	K	Rb	Cs			
融点	181°C	98°C	64°C	39°C	28°C			
密度	0.53	0.97	0.86	1.53	1.87			
構造		(386)	格子(387	_)				
イオン化エネルギー	大							
反応力	小 —				二 大			
炎色反応	(388) 色	(389) 色	(390) 色	(391) 色	(392) 色			
用途	リチウムイオン 電池の負極	トンネル照明 高速増殖炉の冷却材	磁気センサー 肥料(K <sup>+</sup> )	光電池年代測定	光電管 電子時計 (一秒の基準)			

## 10.1.2 製法

水酸化物や	塩化物の[393]	(394)	法)	工業的製法
395	添加([396]	)		

#### 10.1.3 反応

- ナトリウムと酸素
- ナトリウムと塩素
- ナトリウムと水

## 10.2 水酸化ナトリウム (苛性ソーダ)

化学式: 397

#### 10.2.1 性質

- 398 色の固体
- [399] 性
- 水によくとける(水との親和性が 400 \_\_\_\_\_\_)
- 401 剤

無機化学 14/18

• 強塩基性

$$\left(\begin{array}{ccc} 402 & K_1 = 1.0 \times 10^{-1} \mathrm{mol/L} \end{array}\right)$$
• 空気中の $\left(\begin{array}{ccc} 403 & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & \\ & & & \\ & & \\ & & & \\ & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ &$ 

10.2.2 製法

(405)	の 406	(イオン交換膜法)	丁業的製法
(403)	v) ( <del>+</del> 00)		

#### 10.2.3 反応

- 塩酸と水酸化ナトリウム
- 塩素と水酸化ナトリウム
- 二酸化硫黄と水酸化ナトリウム
- 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液
- 二酸化炭素と水酸化ナトリウム

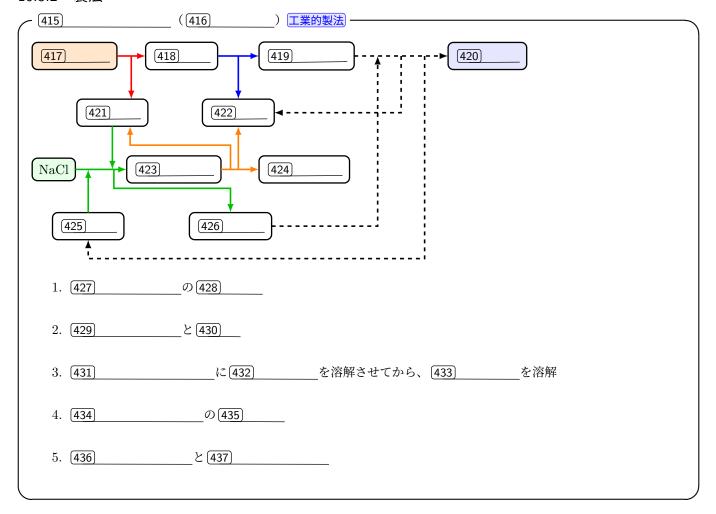
## 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム

#### 10.3.1 性質

名称	炭酸ナトリウム	炭酸水素ナトリウム	
化学式	(407)	408	
色	色色	色 410 色	
融点	850°C	(411)	
液性	(412) 性	性 性	
用途	(414) や石鹸の原料	胃腸薬・ふくらし粉	

無機化学 15/18

#### 10.3.2 製法



#### 10.3.3 反応

• Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> (438)  $K_1 = 1.8 \times 10^{-4}$ • NaHCO<sub>3</sub>  $\begin{cases} 439 & K_1 = 5.6 \times 10^{-11} \\ 440 & K_2 = 2.3 \times 10^{-8} \end{cases}$ 

## 11 2 族元素

## 11.1 単体

#### 11.1.1 性質

II-					
化学式	441	442	(443)	444	(445)
融点	1282°C	649°C	839°C	769°C	729°C
密度 (g/cm <sup>3</sup> )	1.85	1.74	1.55	2.54	3.59
(446) 力	小 大				
水との反応	(447)	448 と反応	449 と反応	450 と反応	451 と反応
M(OH) <sub>2</sub> の水溶性	性 (453) 性)		(454)	性(455)	性)
難溶性の塩	[456]		[457]		
炎色反応	(458)	459	(460)	461	(462)
用途	X 線通過窓	フラッシュ	精錬の還元剤	発煙筒	ゲッター

無機化学 16/18

11.1 単体 11 2族元素

## 11.1.2 製法

塩化物の[463] 工業的製法

## 11.1.3 反応

- マグネシウムの燃焼
- マグネシウムと二酸化炭素
- カルシウムと水

無機化学 17/18

## 第Ⅲ部

## **APPENDIX**

## 12 気体の乾燥剤

固体の乾燥剤は 464 につめて、液体の乾燥剤は 465 に入れて使用。

			· · · •	
性質	乾燥剤	化学式	対象	対象外 (不適)
酸性	[466]	[467]	酸性・中性	塩基性の気体([468])
	<u>(469)</u>	470	1 段任、中任	$+$ $\boxed{471}$ $(\boxed{472}$ $)$
中性	473	<u> </u>	ほとんど全て	<u>475</u>
	(476)	<b>(477)</b>	はこんと主て	特になし
塩基性	478	<b>(479)</b>	中性・塩基性	酸性の気体
	(480)	(481)	中任:塩茎住	(482) , (483) , (484) , (485) , (486) , (487)

無機化学 18/18